

就職氷河期世代を対象にした 職場実習・体験の受け入れにご協力ください

- この「職場実習・体験」は、現在も不本意ながら不安定な仕事に就いているなど、さまざまな課題に直面している就職氷河期世代の方々に、就労体験を通じて業種・職種に対する理解を深めていただくことを目的に実施するものです。
- 事業主の皆さま、職場実習・体験の受け入れにご協力をお願いします。

職場実習・体験の内容

事業所の職員の方が、実際に従事している業務の一部または全体を体験・見学できるような内容としていただきます。

受け入れの流れと手続き

1 「受入条件票」の作成・提出

職場実習・体験の内容や受け入れ条件を様式に記入いただきます。

4 職場実習・体験の実施

必要に応じて、労働局やハローワークの担当者がサポートします。

2 希望者情報の受け取り

貴社での職場実習・体験を希望する方の情報をハローワークからお送りします。

5 「実施結果報告書」の作成・提出

職場実習・体験終了後、実施結果報告書を作成・提出いただきます。

3 実施計画書の作成・提出

受け入れを承諾いただける場合、実施計画書を作成・提出いただきます。

6 謝金の受け取り

受け入れ人数 1 人当たり最大 2 万円の謝金を労働局よりお支払いします。

お問い合わせ・連絡先

* 詳細は、以下の労働局までご連絡ください。

栃木労働局職業安定部職業安定課 担当：職業紹介係 Tel 028(610)3555

※氷河期世代は、おおむね1993（平成5）年から2004（平成16）年に学校卒業期を迎えた世代を指しますが、本事業は、おおむね35歳以上55歳未満の方を対象にします。

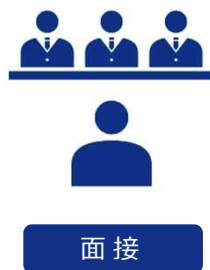
※本事業は、就職氷河期世代の方に、安定就労に向けて職場体験を積んでいただくためのものです。実習終了後に受け入れ先事業所に雇用義務が生じるものではありません。

職場実習・体験事業〈事業主メリットの例〉

事業主に対する事業受入に関するメリット ～受入が成功した例から～

1. ミスマッチの防止

- 職場実習・体験を通じて職場の雰囲気や業務の理解が深まることで、十分に職場を理解した上での応募が期待できる。
- 職場実習・体験を通じた応募であれば、本人が適正の有無を判断した結果なので、入社後のミスマッチや早期離職の防止が期待できる。



2. 人材の見極め

- 職場実習・体験の期間は、短時間のやり取り（面談等）では把握できない、職種への適性や対象者の勤務態度・人柄等を知ることができる良い機会。
- 職場実習・体験により職場の理解をしたいという「やる気度・本気度の高い方」が応募する可能性がある。



3. 職場の活性化

- 職場実習・体験を受け入れ、外部の方がいることにより、新しい視点の意見が得られ、職場の活性化につながる。
- 実習指導を行う中で、業務を振り返ることにより業務改善点等の発見や抽出につながる。



4. 人手不足への対応

- コロナ禍で入国制限がある外国人労働者等ではなく就職氷河期世代を採用することで、職員の年齢バランスのギャップも解消し、技能継承を可能に。
- 応募を迷う対象者に具体的な就業イメージを持ってもらうことや、応募に向けた不安の解消で、本人の応募意欲の高まりが期待できる。



職場実習・体験事業〈対象者メリットの例〉

対象者の職場実習・体験実施に関するメリット ～体験者の事例から～

体験者Aさんの事例

- 応募を検討しているものの、未経験の職種であり、応募に際しての不安も多く抱えていたため、前向きな応募意思を持ってずにいた。
- 窓口で、職場実習・体験を通じ、未経験の体験ができることを説明し、職場実習・体験を実施。
- 対象者は職場実習・体験実施により、具体的な就業イメージが膨らみ、応募の選択肢として積極的に検討。
- 応募に際しての疑問や不明点（休日の取得可否、体力面、異動の有無など）について、職場実習・体験の実施で事業所とコミュニケーションが図られていたことにより、踏み込んだ回答を得ることができた。
- 事業所からの提案で、同年代の職員との面談（オンライン）を実施。職場の状況をより一層理解できたこともあり、正社員での採用につながった。

体験者Bさんの事例

- 学校卒業後、複数の職場で働き、それぞれの在籍期間も短いため自身の職務経歴に自信がなかった。安定就職の希望はあったが、書類選考で不採用になることが続いていた。
- 当初より応募を検討していた事業所での職場実習・体験を実施。
- 求人票だけでは分からない職場の雰囲気を知り、実際に現場で働く従業員からの生の声を聞くことで、不安を解消できた。
- 従業員とのコミュニケーションにより、企業やその職場のことを知るだけでなく、自分の勤務を直接見ていただくことで、仕事ぶりをアピールできる機会にもなった。
- 実習後、求人への応募を決意し、結果正社員で採用された。
- 履歴書に書ける経歴もなかったが、実際に実習の場で素の自分を見ていただいたことで、過去の自分ではなく、今の自分を評価していただいた。職場実習は過去の弱みがあっても好印象を得られる良い機会だった。

職場実習・体験事業〈参加者・事業主からの声・好事例〉

職場実習・体験の参加者・事業主からの声・好事例

体験実習で一番良いと感じたことは、内部の方々の声を直接聞いたことで不安が払拭された点。現場の社員に持病を伝えた際に、有給休暇を取得し通院が可能であるとの情報を聞いたのは大きい。

色々な小売店に行き、営業等ルート販売に同行させてもらいとてもよかった。自分にもできそうと自信がついた。

自分に向いている仕事、向いていない仕事分かった。

未経験の職種への応募を検討していた不安が大きかったが、体験実習で一度経験ができ、応募に自信がついた。

サポステの職場体験プログラムは長期間なので、より短期間で実習ができる点が良かった。

事業所からの提案により、生の現場職員の声として、参加者と同じように異業種から転身した同年代の職員とオンラインで話す機会を設けてもらった。

期間中、休憩時間等に参加者とざくばらんに話せる時間が持てるのが良い。

体験者を紹介していただいたことで、外部目線による刺激により、社員の教育やモチベーションの向上にも繋がった。

体験に来られた方が好印象であったので、体験後は是非こちらに就職していただきたいと感じた。

従業員とのコミュニケーションを取りつつ、職種理解をするにはちょうどよい期間（10日程の実習）だと感じる。



参加者

短期の就業が多いため自身の職歴に自信がなかった。書類選考で不採用になることも多かった。実習後、実習先の求人に応募し、採用になった。応募前に実習を通して自分を知っていただき、仕事ぶりも見えていただけただからだと思う。

入社後の早期離職を防ぐに当たり、向き不向きを理解いただくためにも体験実習は有効と感じた。

今後も体験実習希望者は歓迎したい。



職場